



全ての自治会に住民運営の「地域の見守り拠点」を

福崎町社協は、住民主体の地域総合援護システムづくりや「ミニデイサービス」の実施などの小地域福祉活動に積極的に取り組むとともに、講座等の開催を通じてボランティア活動リーダーの育成を図っている。中でも、福崎町社協が進めるミニデイは、すべての自治会単位(35自治会)で実施され、生きがいづくりや閉じこもり防止などにつながる活動だ。地域の協力者により、公民館ごとに自主運営されているミニデイは、地域における見守りの拠点となっている。

開設のきっかけは地域住民の要望から

公民館に響き渡る「おはようございます」の声。ミニデイの一日は参加者同士の元気な挨拶から始まる。

ミニデイの開設は、介護保険制度の創設に伴いデイサービスの利用内容の見直しが行われたことがきっかけとなった。従来からサービスを利用していた高齢者の、「デイサービスを利用できなくなったら、どこへ行つたらいいんやろ」という声を踏まえ、社協と行政の協働により地域での開設を支援することになった。

それ以降、社協でモデル地区を指定し、順次ミニデイを開設していった結果、平成14年度には全ての自治会で実施されるようになった。また、社協では「ミニデイ支



援事業」も実施し、ミニデイ運営の担い手である民生委員・児童委員や福祉委員、老人会などのスタッフに対して、情報交換や活動のヒントを考える場を設けて、活動の活性化を図っている。

地域の見守り拠点として世代を超えたつながりを

笑いあり、歌ありの
レクリエーション

社協では、
ミニデイを
高齢者のリ
ハビリ・交流
の場として
だけでなく、
地域の見守
り拠点として



位置づけ、世代を超えた交流の場として活動を支援していくこととしている。

地域の中には、ミニデイに参加できなかった人に対して、「どう過ごしているのか」「元気にしてるか」と気遣って個別訪問を行ったり、地域の子育てグループや子ども会と連携した行事を開催したりするなど、世代を超えた交流を図る地域も生まれている。

取材を終えて

「高齢者が気軽に過ごせる場」としてミニデイを始めた福崎町では、参加者の皆さんも生き生きとされています。みんなで集まってお互いの元気な姿を確認し、時に参加できなかつた方を気遣うことは、地域の見守り活動にとって大切な要素です。地域包括ケアに向けて、ミニデイが地域の見守り拠点として、また世代を超えたつながりの場として、活性化していくことを期待します。

会長から 福崎町社会福祉協議会 理事長 中井 肇

福崎町は旧来の人とのつながりも残り、自治会活動が盛んな地域です。少子高齢化や、生活スタイルの変化によって地域活動の担い手や活動内容が若干変わりつつありますが、地域での行事や活動、地域団体での普段からのつながりが根付き、顔の見える関係で助け合い活動が維持されています。

ミニデイサービスは福崎町の自治会において地域の縁側的な役割を担っています。地域に根付く文化や人と人のつながりを次の世代につなげられるよう「住民誰もが助け合い、心豊かに安心して暮らせるまちづくり」を福祉目標に取り組んでいます。

